

WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート

(2026年2月)

■ 2月のパフォーマンス

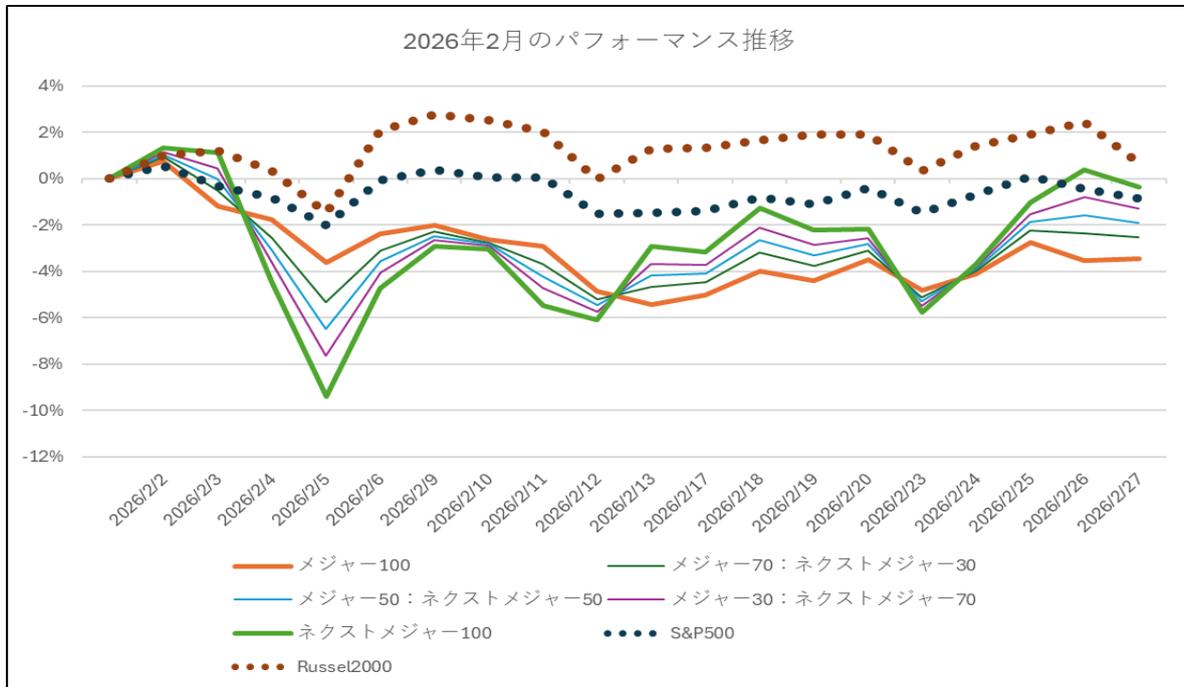
➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	△3.48%
ネクストメジャー100	△0.36%

➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	△0.87%
Russel2000	+0.71%
NY ダウ	+0.17%
NASDAQ	△3.38%

➤ 運用コース毎の当月パフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク (%)	超過収益
1位	ネクストメジャー100	-0.36%	Russel2000	0.71%	-1.07%
2位	メジャー30：ネクストメジャー70	-1.29%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	0.24%	-1.53%
3位	メジャー50：ネクストメジャー50	-1.92%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	-0.08%	-1.84%
4位	メジャー70：ネクストメジャー30	-2.54%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	-0.39%	-2.15%
5位	メジャー100	-3.48%	S&P500	-0.87%	-2.61%
	全戦略平均	-1.92%			-1.84%

※各指標のベンチマークについて

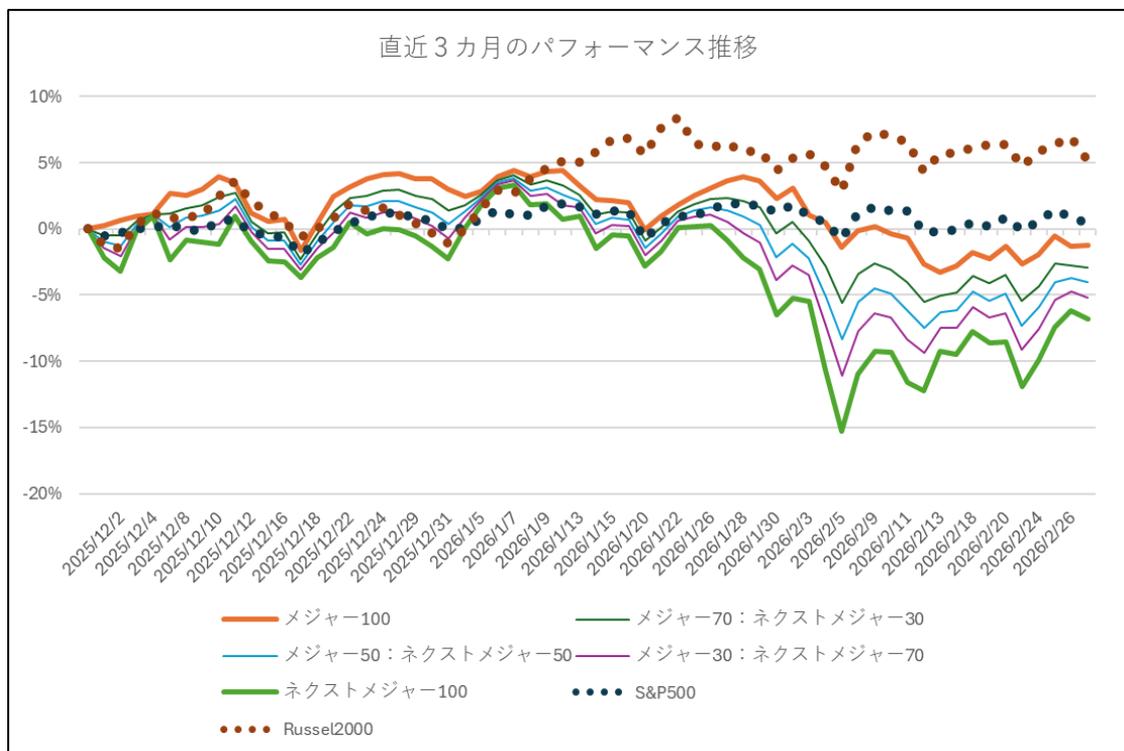
メジャー100のベンチマークはS&P500、ネクストメジャー100のベンチマークはRussel2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

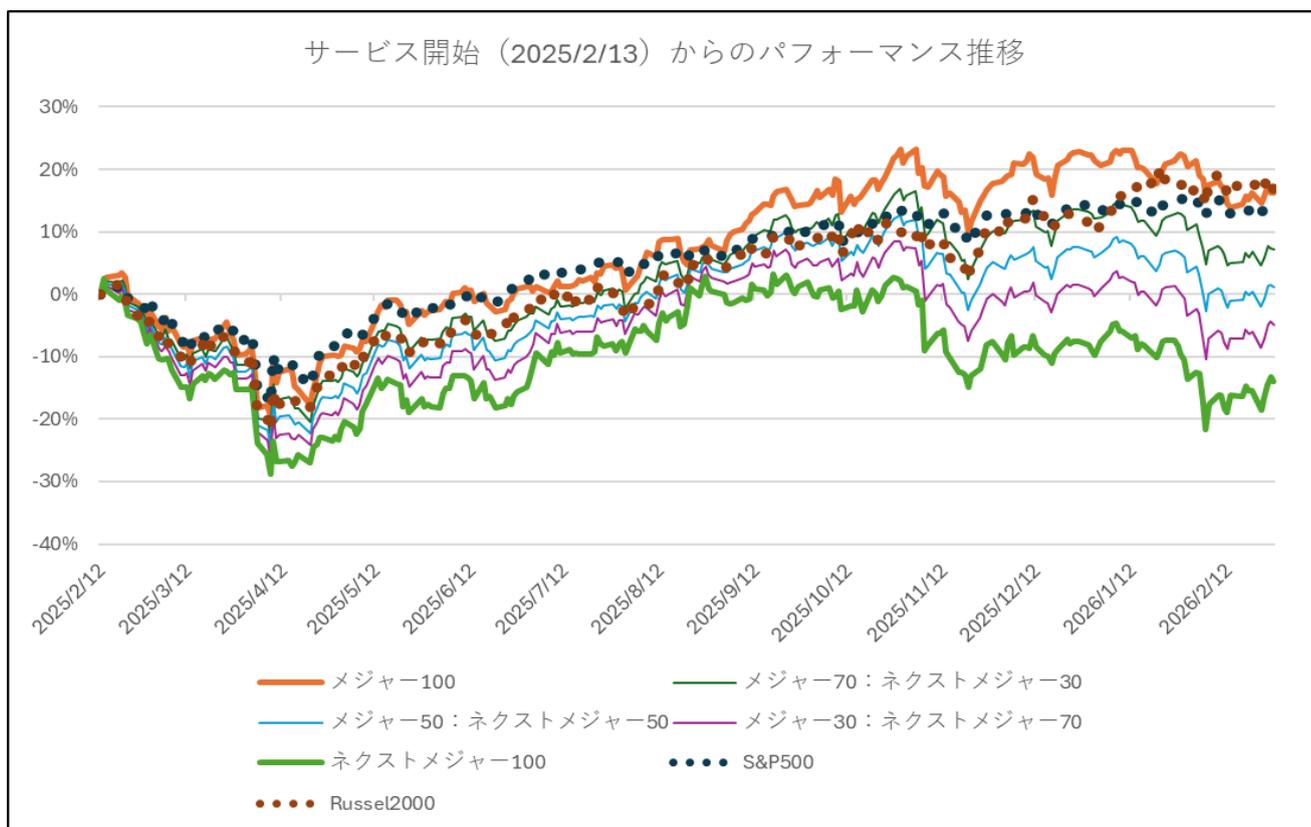
WEALTH GROWTH（ウェルスグロス）で最も月間成績が良かった戦略は、「グロス100」でした。月間で△0.36%、対ベンチマーク超過収益では△1.07%となり、ベンチマークをアンダーパフォームする結果となりました。

➤ 直近3カ月のパフォーマンス推移グラフ



➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロース）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年2月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

➤ 設定来の騰落率

WEALTH GROWTH（ウェルスグロース）の2025年2月13日（サービス開始）から2025年2月末までの運用実績です。

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来	シャープレシオ	ソルティノレシオ
メジャー100	-3.48%	-1.26%	7.88%	19.73%	16.29%	1.47	2.82
ネクストメジャー100	-0.36%	-6.84%	-14.31%	-7.88%	-13.92%	0.30	0.43
S&P500	-0.87%	0.43%	6.48%	15.52%	13.66%	1.75	3.24
Russel2000	0.71%	5.09%	11.16%	21.57%	16.69%	0.96	1.65

※騰落率は、サービスローンチの2025年2月13日からのデータを対象に算出しています。

※シャープレシオ及びソルティノレシオは、実運用開始の2024年6月4日からのデータを対象に年率換算し算出しています。

■ 2月の市況概況

➤ 米国市場

2月の米国市場は、AI（人工知能）の進化に伴う既存産業への影響や、トランプ政権の関税政策、中東の地政学リスクに大きく揺さぶられる展開となりました。AIによる業務代替懸念からソフトウェア関連株が乱高下し、市場の不確実性が高まる1ヶ月でした。

・**第1週（2月2日～2月6日）** / **ダウ平均** : **+2.50%** **S&P 500** : **△0.10%**、 **NASDAQ** : **△1.84%**

ダウ初の5万ドル突破、AI代替懸念と雇用統計

次期FRB議長にタカ派のウォルシュ氏が指名され、市場の利下げ観測が後退しました。1月のISM製造業景気指数が改善したことで、ダウ工業株30種平均は史上初の5万ドルを突破しました。一方で、新興AI企業アンソロピックの新機能発表により、AIが既存のソフトウェアを代替するとの懸念が広がり、SaaSなどのソフトウェア株が売られる展開となりました。

・**第2週（2月9日～2月12日）** / **ダウ平均** : **△1.23 %**、**S&P500** : **△1.39 %**、**NASDAQ** : **△2.10 %**

強い雇用統計とインフレ鈍化の綱引き

1月の雇用統計で非農業部門雇用者数が13万人増と市場予想を大幅に上回り、失業率も4.3%へ改善したことで、FRBの早期利下げ観測が後退しました。その後発表された1月のCPI（消費者物価指数）は前年比2.4%上昇とインフレの鈍化を示しました。しかし、小売売上高の弱さや、巨大IT企業のAI設備投資の巨額負担に対する懸念からハイテク株の上値は重く、ナスダック総合指数は続落しました。

・**第3週（2月16日～2月20日）** / **ダウ平均** : **+0.25 %**、**S&P 500** : **+1.07 %**、**NASDAQ** : **+1.51 %**

地政学リスクとプライベートクレジット懸念

1月のFOMC（連邦公開市場委員会）議事要旨で、インフレ高止まり時には利上げが適切になる可能性が議論されていたことが判明し、市場に警戒感が広がりました。また、米国とイランの軍事衝突リスクの高まりや、米投資ファンドによるプライベートクレジットの解約制限が流動性懸念を誘発、米連邦最高裁によるトランプ関税の違憲判決も政策の不透明感を強めました。

・**第4週（2月24日～2月27日）** / **ダウ平均** : **△1.31 %**、**S&P500** : **△0.44 %**、**NASDAQ** : **△0.95 %**

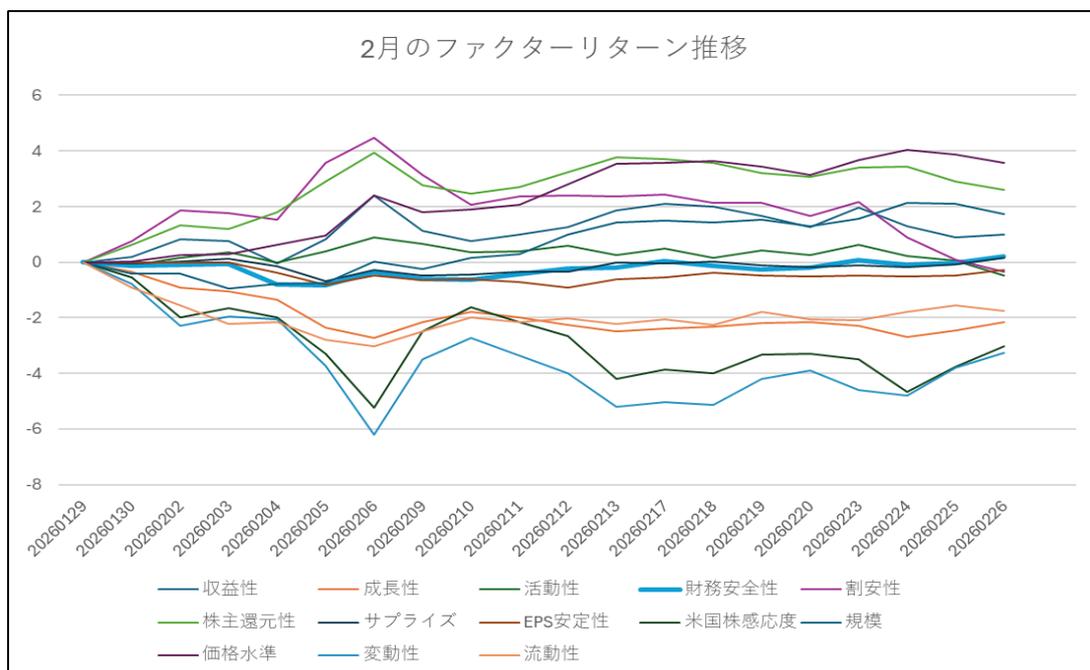
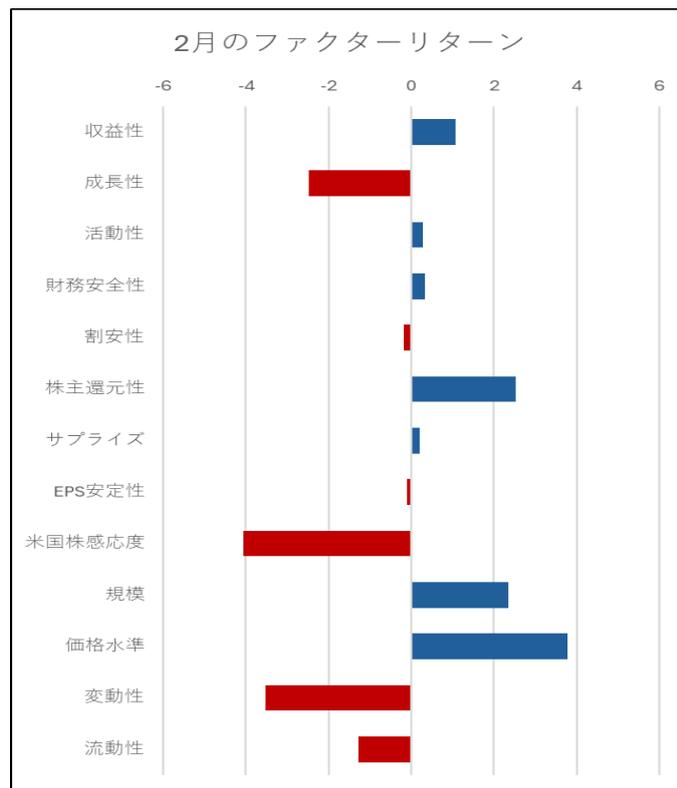
トランプ関税の違憲判決を受け、トランプ大統領が新たな10%の一律関税を発動し、市場の混乱を招きました。NVIDIAの11-1月期決算は売上・利益ともに過去最高を更新したものの、AIブームの過熱感から利益確定売りに押され株価は急落しました。さらに、地政学リスクの急拡大から主要3指数は揃って下落しました。

■ 月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

2月は、大型・値がさのクオリティ株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、株価水準ファクター・規模ファクター・株主還元性ファクター・収益性ファクターがプラスとなり、AIの進化に伴う既存産業への影響（SaaSの死）、トランプ政権の関税政策、中東の地政学リスク等に大きく揺さぶられ、リスクオフの展開となるなか、大型・値高のクオリティ株ヘディフェンシブな資金が向かったことが見て取れます。

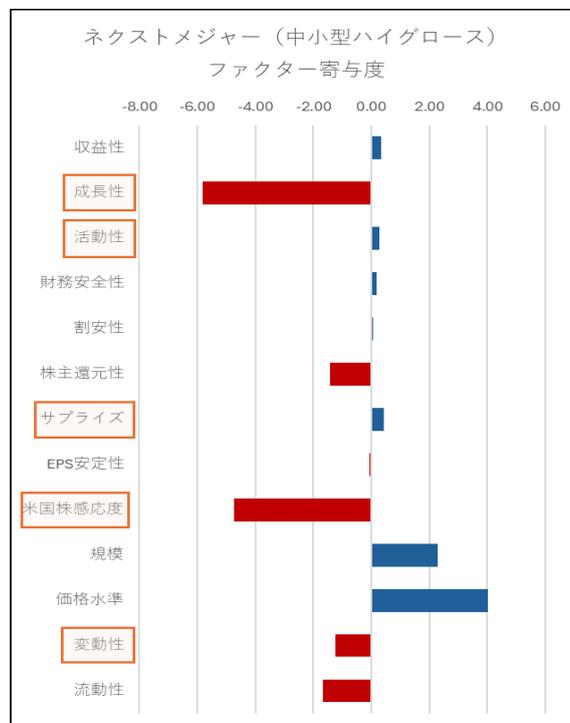
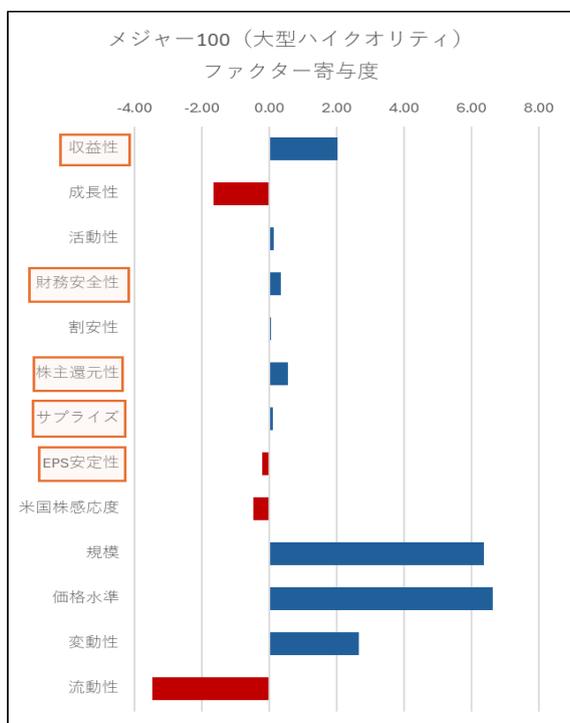


➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、

メジャー100 (大型ハイクオリティ) がS&P500をアンダーパフォームした要因は、メジャー100の特徴である「高収益、好業績 (=ポジティブ・サプライズ)、財務安定」といったポートフォリオ特性はプラスに寄与するも、高い流動性と高米国株感応度 (=ハイベータ) 特性がマイナスに大きく寄与したためです。

ネクストメジャー100 (中小型ハイグロース) がRussel2000をアンダーパフォームした要因は、ネクストメジャー100の特徴である「高米国株感応度 (=ハイベータ)、高変動性 (=ハイリスク)、高成長」といったポートフォリオ特性がマイナスに寄与したためです。



➤ 個別銘柄寄与度

メジャー（大型ハイクオリティ） 寄与度上位5銘柄

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	NEM	ニューモント	3.8%	0.55%
	世界最大級の産金会社。金価格の高止まりにより収益性が大幅改善。2025年Q4決算では、非中核資産の売却とコスト削減が功を奏し、フリーキャッシュフローが過去最高水準を記録。金価格上昇の直接的な受益銘柄として評価されています。			
2	NFLX	ネットフリックス	3.8%	0.53%
	世界最大の動画配信サービス会社。2026年2月、Warner Bros. Discoveryの買収断念が報じられ、無謀なM&Aを回避したとして市場が好感。広告プランの収益化も順調で、広告収入は前年比2.5倍に達しています。			
3	MRK	メルク	1.9%	0.21%
	大手製薬会社。主力薬「キイトルーダ」が好調。2026年通期のガイダンスは為替の逆風によりやや控えめですが、次世代パイプラインの開発が順調。キイトルーダの特許切れ対策としての買収戦略が注目されています。			
4	AAPL	アップル	9.8%	0.18%
	iPhone、Mac、AI（Apple Intelligence）を提供。2026年Q1売上高は1,438億ドルと好調。Google Geminiとの提携深化や、新型iPhone 17の「スーパーサイクル」が本格化しており、AIスマホのリーダーとしての地位を築いています。			
5	CMCSA	コムキャスト	2.5%	0.10%
	通信、メディア、テーマパークを提供。ブロードバンド契約の伸び悩みはあるも、ワイヤレス事業が12%増と好調。低遅延の「RealTime4K」技術の導入により、スポーツ配信での優位性を確立しています			

ネクストメジャー（中小型ハイグロース） 寄与度上位5銘柄

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	FSLY	ファストリー	6.4%	4.42%
	エッジコンピューティング、CDNを提供。2026年初頭に黒字化の兆しが見え、株価が52週高値を更新。AI関連トラフィックの増加により、トップ10顧客の利用料が前年比25～30%増と急成長しています。			
2	FIX	コンフォート・システムズ	8.7%	1.93%
	産業用空調(HVAC)・電気設備。AIデータセンターの冷却需要により、受注残高が約100億ドルの記録的水準に。AIチップの熱対策に同社の高度な空調技術が不可欠となっており、業績が爆発しています。			
3	ECG	エベラス・コンストラクション	5.2%	1.61%
	送電・エネルギーインフラ建設。米国の電力網近代化需要により、送電（T&D）部門のマージンが拡大。2025年Q3決算では予想を大きく上回るEPSを記録し、公共投資の恩恵を受ける銘柄として評価されています。			
4	DAVE	デイブ	5.3%	0.87%
	AI主導のフィンテック銀行（ネオバンク）。独自の「CashAI」による融資審査が驚異的な低デフォルト率を実現。2026年の売上成長率は27%増を見込んでいます。			
5	LITE	ルメンタム	1.2%	0.67%
	光学コンポーネント、レーザーを提供。NVIDIAとの資本提携および出資が最大のインパクト。AIクラスター内の高速データ通信に不可欠なトランシーバー需要で「光学スーパーサイクル」に突入、今後の成長が大きく期待されています。			

■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S & P500 を凌駕するパフォーマンスを目指します

2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：ニューヨーク証券取引所及び NASDAQ に上場する約 5,000 銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

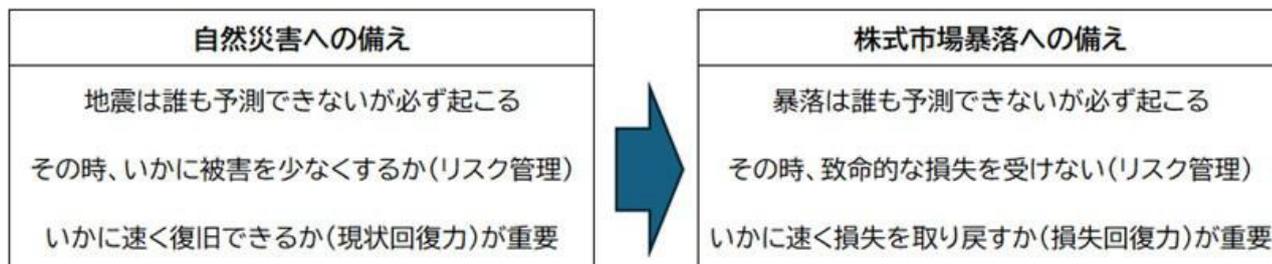
特色 3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS 安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は 20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクは S & P500 ±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・Wealth Growth（ウェルスグロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていけば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。

計算式は、年率換算リターン/年率換算下方リスク。

① 大型株 (Major)

「高収益」×「EPS 安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

② 中小型株 (Next Major)

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、ハイ・グロース特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロース銘柄群に投資します。

4. ファクターの説明

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

5. リスク管理

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年3月9日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Jトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要コストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

<p>[投資一任契約の媒介業者]</p>  <p>Jトラストグローバル証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 加入協会/ 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会</p>	<p>[口座管理機関]</p>  <p>株式会社スマートプラス 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号 加入協会/ 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会</p>
---	---